

学校だより
平成 29 年
4 月 19 日 号

はるにれ

海老名市立
有馬小学校
校長 村松 かおり

新年度がスタートしました

始業式から2週間たち、子どもたちはそれぞれのペースで新しい生活に慣れつつあるようです。節目のこの時期、一人一人が心に抱いた「がんばるぞ！」の種が、学校生活の様々な体験を「水」や「肥料」として、すくすく育ち色とりどりの花を咲かせていくように、職員一同力を合わせ指導にあたります。今年度も保護者の皆様のご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



職員の紹介 ～1年間よろしくお願いいたします～

※インターネット掲載に伴い、職員の紹介は省略させていただきます。
ご家庭への配布にて、ご確認ください。



自己紹介に代えて ～始業式で伝えなかったこと～



ぼくは今二年生です
あまりべんきょうができません
でも ぼくもぼくなり
生きています
あたまわるいけど
学校がすきです

4月5日の始業式で、何を話そうかと悩んだあげく、小学校2年生が作った「ぼく」という詩を紹介し、次の話をしました。「この詩を作った子は素敵だなあ、苦手なことを隠したり、ほったらかしにしたりしないで、自分なりのやり方でちょっとずつ頑張っているんだろうなあと思います。そして、『学校がすきです』と言い切れるのは、周りに勉強が苦手なことを笑ったり、ばかにしたりする人がいないからだろうとも思います。失敗することを

恐れずに、みんなが安心していろんなことに挑戦できる素敵な学校なんでしょうね。

さあ、今日から学年が1つ上がり、新学期が始まります。『がんばるぞ!』と思っていることがそれぞれあるでしょう。でも、学校が楽しい場所でない「やる気の種」は芽を出しません。有馬小学校の全員が、失敗しても大丈夫、ドンマイ頑張れ!と励まし合い、助け合いながら成長していく1年間にしましょう。」

他者と関わりながら多くのことを経験し、体験を通してこれからの社会をたくましく生き抜く力を育むのが、学校の大きな役割だと私は考えます。失敗してもへこたれず、認められたことを励みとしながら、すべての児童が安心して過ごし、健やかに伸びていく「素敵な学校」を目指したいと思います。

【出典】 川崎 洋編 「あたまわるいけど学校がすき こどもの詩」 中公新書ラクレ